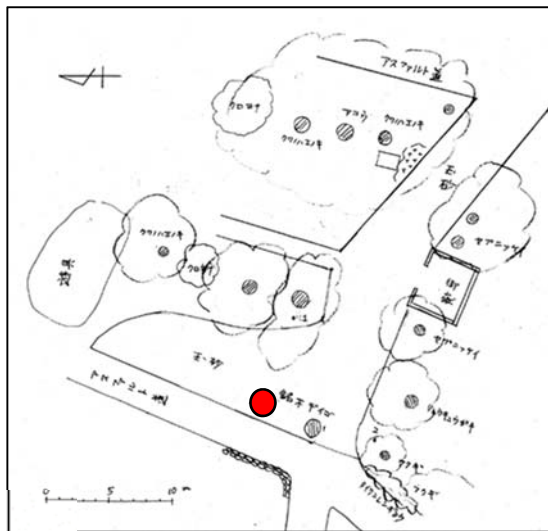


ナカヌタウンのデイゴ(北)



認定番号 98-2

樹種名	デイゴ	科名	マメ科	方言名	ディーグ	学名	<i>Erythrina variegata ver.orientalis</i>				
形状・寸法	樹高 9.8 m	胸高周囲 3.3 m	根本周囲 4.1 m	樹幹占有面積 177 m ²							
	枝下高 2.5 m	枝張 東 6.2 m 西 6.3 m	南 5.3 m 北 5.5 m	最大樹冠幅 12.5 m							
通称	ナカストウンのデイゴ	樹齢	110 年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 ④ その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考:平安座自治会所有						
所在地	糸満市字喜屋武(喜屋武公園)			立地場所	① 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 ⑥ 名木 7 その他 8 なし				気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 ④ 建物の間 ⑤ 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 (公園)			(最寄りの7マスデータ)		平均気温(°C)	15.3	16.1	16.7	19.1	21.9
	土地傾斜	① 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			降水量(mm)	42.5	268.5	220.0	105.0	416.5	346.5
土壌		① 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()			2014年	平均風速	5.9	6.1	6.0	5.4	4.9
	基岩・母材	1 山地 2 丘陵地 ③ 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他				風向	N	N	N	E	ESE
地形		① 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			地点:糸数	平均気温(°C)	27.4	27.0	26.8	23.4	20.6
	土性	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()			潮風の影響	降水量(mm)	280.5	197.0	87.0	168.0	77.0
根元及び周囲の植生		1 山地 2 丘陵地 ③ 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他				日照条件	平均風速	5.9	4.1	4.2	7.7
	管理状況	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる ④ 埴土:ほとんど砂を感じない			周辺樹木の影響		風向	SSE	SW	SE	NNE
過去の治療歴と内容		1 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()				周辺根元の状況	年平均気温	21.3 °C		最高気温 32.6 °C	
	故事来歴	1 山地 2 丘陵地 ③ 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			周辺樹木との関係		年降水量	2302.5 mm		最低気温 9.1 °C	
視認性		① 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()				周辺樹木との関係	1 なし 2 ややある 3 ある ④ やや強く受ける 5 強く受ける(特記)				
	特記事項	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()			周辺樹木との関係		日照条件	① 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良			
特記事項		1 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()				周辺樹木との関係	周辺樹木の影響	1 なし ② わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))			
	特記事項	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()			周辺樹木との関係		周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 ③ 固結している ⑤ 踏圧あり b 踏圧なし			
特記事項		1 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()				周辺樹木との関係	周辺樹木との関係	① 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている			

管理状況	1 柵 a 有 ⑤ 無 (有の場合の高さ m、材質() 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 ⑤ 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 ⑤ 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 ⑤ a 有 b 無 (有の場合 回数 種類 H25.10.25アトラック樹幹注入12本) 6 解説板 ⑤ a 有 b 無 7 避雷針 a 有 ⑤ b 無 8 定期的な草刈・掃除 ⑤ a 有 b 無 9 その他
過去の治療歴と内容	
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明
視認性	1 遠方からも目立つ ② 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)
特記事項	1 動物生息 a 有 ⑤ b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 ⑤ b 無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 生徒・父兄等

地上部の衰退度判定（認定番号98-2）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.27

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

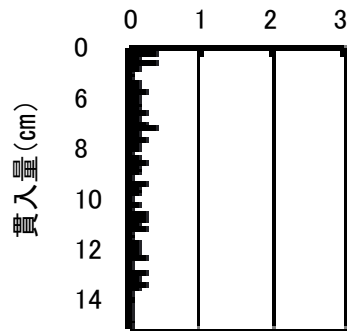
項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下	○			
幹の傾斜の増大	○			
その他()				

土壤調査結果 (認定番号 98-2)

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)	備考
I	—	0-14	—	埴壤土	7.8	2.0	表層は豆砂利 が敷設されている
II	7.5YR3/3	14-	堅果状	埴土			

土壤貫入量結果

貫入量 (cm)



部位	所見	対応
土壌	・根の周辺は厚さ 5 cm 豆砂利で舗装されている。	・無し。
根	・地際部(南面)に縦 10cm、幅 15cm、深さ 20cm、及びたて 10cm、横 10cm、深さ 15cm の貫入部がある。いずれも芯には達していない。	・外科的な処置を検討する。
幹	・北面 20cm から 1m の長さで溝状に窪み、その下部は開口し、25cm 程度の深さで空洞化または腐朽している。樹形が安定しているので割裂の恐れはないと考える。	・無し。
枝	・高さ 3m の大枝の分岐点に亀裂が認められる。その他枝の付け根に亀裂が生じているものがある。入り皮の可能性が高い。デイゴの材は強度が弱く、枝の重量が増すごとに折損の可能性が高まると考える。	・短期的な観察を検討する。 ・枝の剪定または支柱設置を検討する。
	・枝同士の擦れによる傷が多い。	・密に生じている枝は切りすかしを検討する。
	・小枝の先枯れが多い。・台風の影響と思われる	・定期的な観察を検討する。
葉	・虫瘤は殆ど認められない。	・デイゴヒメコバチ対策として樹幹注入剤の継続施用を検討する。
備考		

